

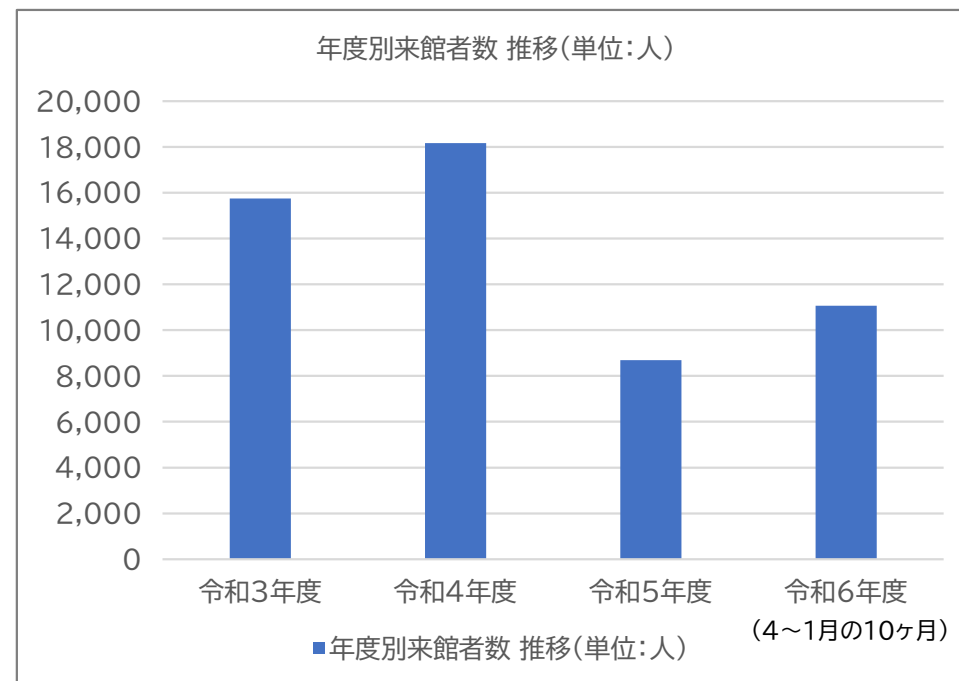
令和6年度 しょうけい館運営事業 実施状況報告

(令和6年4月1日から令和7年1月末日まで)

0. 目 次	01
1. しょうけい館利用状況	
(1)しょうけい館 来館者数	02
(2)団体利用 集計(団体種類別)	03
(3)団体利用集計(1団体人数別の団体数)	03
(4)団体利用 集計(利用団体毎の人数クロス集計)	04
2. 展 示	
(1)企画展の実施	05~09
(2)3館連携企画	10~12
(3)こども霞が関見学デー	13
(4)上映会の開催	14
(5)貸出キット	15
3. 資料収集・保存	
(1)実物資料の収集	16
(2)図書資料の収集	16
(3)この他実施した資料調査	17
4. 普及・広報	
(1)ホームページ・情報媒体利用	18
(2)メディア・掲載記事	19~22
5. 語り部活動事業	24~27
6. しょうけい館通信(友の会)	28
7. 利用者アンケート	29~32

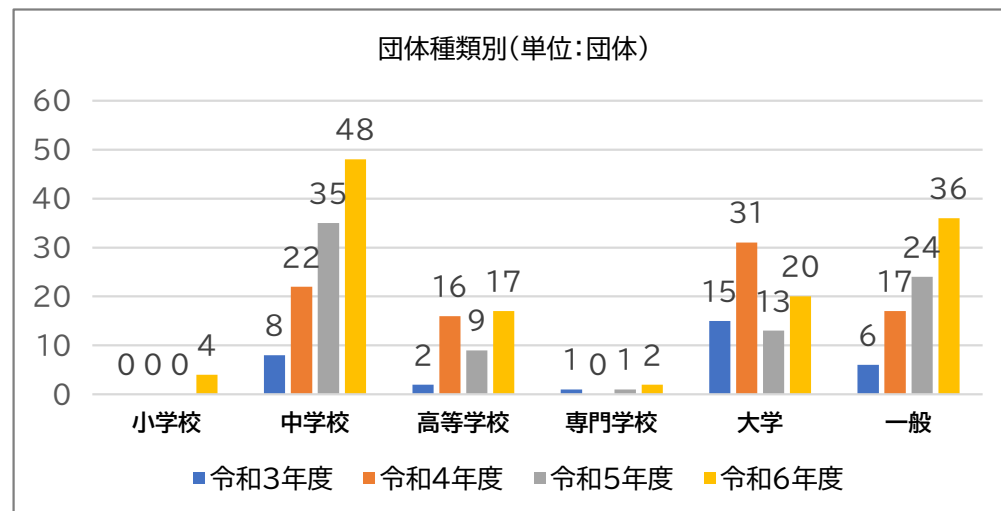
(1)しょうけい館 来館者数 (※旧施設では館が設置している「自動カウンター機」により計測 / 新施設では「入場券発券機」により計測)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
4月	1,134	1,520	1,098	765
5月	—	1,361	1,104	1,263
6月	893	1,492	1,054	919
7月	1,334	1,753	1,096	1,330
8月	2,320	2,974	移転休館	1,741
9月	1,004	1,359	移転休館	1,050
10月	1,529	1,327	192	930
11月	1,347	1,315	728	1,189
12月	1,262	1,339	744	712
1月	1,360	1,205	824	1,159
2月	1,693	1,249	1,094	
3月	1,869	1,264	749	
合計	15,745	18,158	8,683	11,058



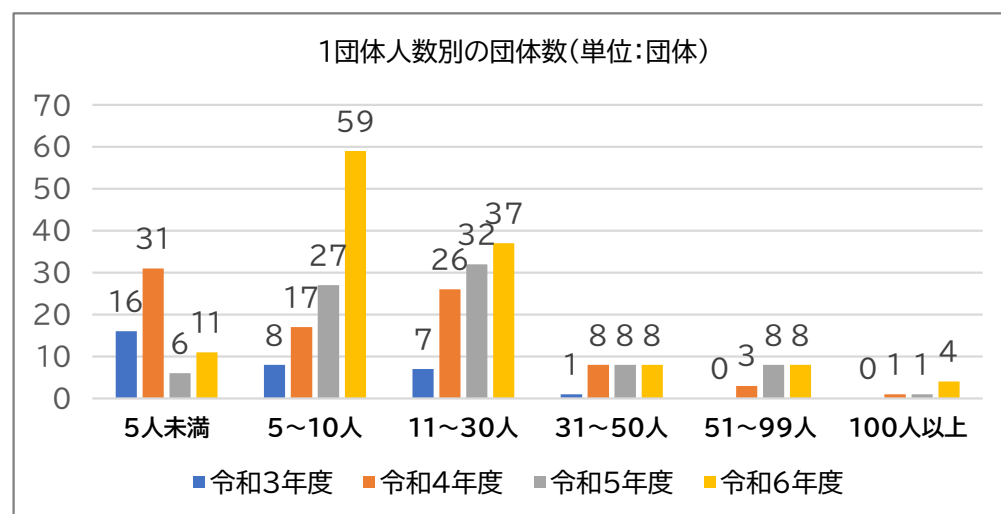
(2) 団体利用集計(団体種類別)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校	0	0	0	4
中学校	8	22	35	48
高等学校	2	16	9	17
専門学校	1	0	1	2
大学	15	31	13	20
一般	6	17	24	36
合計	32	86	82	127



(3) 団体利用集計(1団体人数別の団体数)

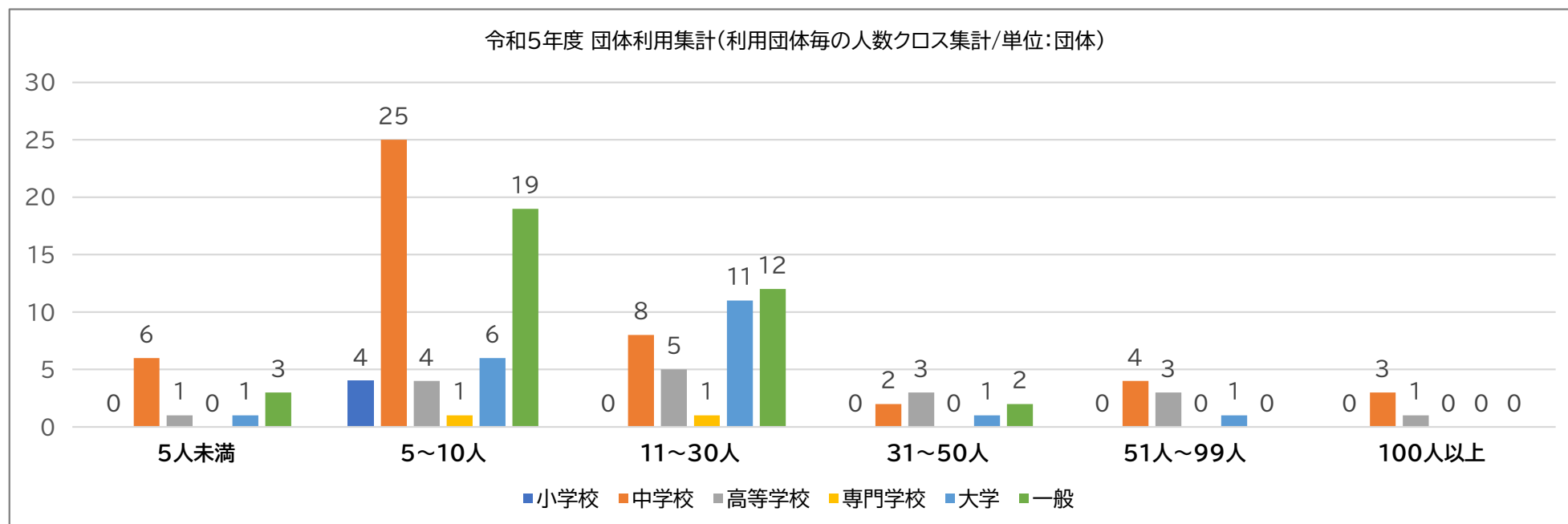
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
5人未満	16	31	6	11
5~10人	8	17	27	59
11~30人	7	26	32	37
31~50人	1	8	8	8
51~99人	0	3	8	8
100人以上	0	1	1	4
合計	31	86	82	127



(4) 令和6年度 団体利用集計(利用団体毎の人数クロス集計)

令和7年1月末日(単位:団体)

	小学校	中学校	高等学校	専門学校	大学	一般	合計
5人未満	0	6	1	0	1	3	11
5～10人	4	25	4	1	6	19	59
11～30人	0	8	5	1	11	12	37
31～50人	0	2	3	0	1	2	8
51～99人	0	4	3	0	1	0	8
100人以上	0	3	1	0	0	0	4
	4	48	17	2	20	36	127団体



(1) 企画展の実施

① 春の企画展「義手と仕事 ～戦争で手を失った戦傷病者～」

会 期： 令和6年3月5日(水)～令和6年6月2日(日)

内 容： 義手を使用していた戦傷病者の労苦を、仕事面に焦点をあて、展示を行いました。戦争での負傷が原因でやむなく手や腕の切断をし、喪失感と向き合いながら、義手を自分の手として使い慣れるまで、血のにじむような努力を続け、日常生活の動作に慣れ、義手で仕事をするまでの道のりと、戦傷病者それぞれの仕事、場面場面での気持ちなどを証言や手記を交えて実物資料展示しました。

協 力： 川村義肢株式会社



(1) 企画展の実施

② 夏の企画展「海軍 青年たちの戦争 ―5名の足跡をたどって―」

会 期： 令和6年6月4日(水)～令和6年9月1日(日)

内 容： 海軍に志願し、戦傷病者となった5名の青年の半生を焦点をあてて展示を行いました。勇ましい軍人の姿や、海原や大空に憧れを抱き海軍を志願した青年たちが戦場へ赴き、そこでどのような体験をし、何を思い、終戦を迎えることになったのか。5名の証言や手記、資料を通して紹介するとともに、海軍に存在したさまざまな兵種や、兵種によって特徴的な戦傷病、衛生機関や傷病兵の収容体系、海軍病院などについても解説しました。



(1) 企画展の実施

③ 秋の企画展「青年武良 茂(水木しげる)と戦争」

会 期: 令和6年9月3日(火)～令和6年12月1日(日)

内 容: しょうけい館ではこれまで継続的に水木しげる先生の戦争体験とその労苦を紹介する企画展を実施していました。移転後も、若い世代を中心に分かりやすく理解してもらえるよう内容を充実させ、秋と冬の企画展で、前期・後期に分け開催することにしました。

秋の企画展では、青年時代の召集され戦地へ赴き、受傷するまでを、作品、個人資料、映像で紹介しました。

協 力: 株式会社水木プロダクション



(1) 企画展の実施

④ 冬の企画展「漫画家水木しげる(武良茂)と戦争」

会 期: 令和6年12月3日(火)～令和7年3月2日(日)

内 容: 冬の企画展は、秋の企画展で紹介した青年時代(徴兵～受傷まで)に続く流れとして、戦地で終戦を迎え復員、様々な職を経て漫画家となり、戦争体験を描くまでの、作品、個人資料、映像で紹介しました。

協 力: 株式会社水木プロダクション



(1) 企画展の実施

⑤ 春の企画展「綴られた思い ―戦争を知らない世代に伝えたい体験と記憶―」

会 期： 令和7年3月4日(火)～令和7年6月1日(日)

内 容： 今年で終戦80年目となる節目の年であり、戦争体験を後世に伝えていくことが、ますます重要であることから、戦傷病者とその家族が遺していった体験記に焦点をあてて、戦中・戦後の労苦を伝えることとしました。体験記に記された、自ら経験した戦争の時代、軍隊生活、戦争による受傷病、困難を抱えながらも家族や仲間を支えられながら生き抜いた戦後などについて、寄贈資料とともに展示しています。

チラシ



令和6年度 春の企画展

綴られた思い
―戦争を知らない世代に
伝えたい体験と記憶―

入場無料

令和7年(2025) 3.4(火)・6.1(日)

開館時間・10時～17時30分(入館は17時まで)

会 場・2階 企画展示室

休 館 日・毎週月曜日・5月7日(水) ※5月5日(月)は開館
※会期等も変更する場合があります。最新の情報は当館ホームページをご確認ください。

SHOKEIKAN
しょうけい館
戦傷病者史料館



令和6年度 春の企画展

綴られた思い
―戦争を知らない世代に
伝えたい体験と記憶―

本展は、戦傷病者や妻の記した体験記から、戦中・戦後の労苦を伝えるものです。体験記には、自分の経験した戦争の時代、軍隊生活、戦争による受傷病、困難を抱えながらも家族や仲間を支えられながら生き抜いた戦後などが記されています。一人ひとりの戦中・戦後の労苦に焦点をあて、体験記や寄贈資料を紹介します。

戦争を体験していない世代のまた先の世代へ、戦傷病者とそのご家族が遺してくれたものを、私たちが知り、そして次の世代へとつなぐことの大切さについて、体験記を通して考えてみませんか。

地下鉄をご利用の場合

- ・東京メトロ 九段下駅(東西線・半蔵門線)7番出口より徒歩3分、5番出口より徒歩5分
- ・都営地下鉄 九段下駅(新有明線)7番出口より徒歩3分、5番出口より徒歩5分

バスをご利用の場合

- ・都営バス 九段下(都64系統)より徒歩4分
- ・千代田区コミュニティバス 千代田保健所(九段下駅)より徒歩5分

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

当館は、戦傷病者とそのご家族が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての証言・歴史的資料・書籍・情報を収集、保存、展示し、次世代の人々にその労苦を知る機会を提供する国立の施設として、平成18年に開館し、令和5年に移転しました。

しょうけい館
戦傷病者史料館

www.shokeikan.go.jp

〒102-0073 東京都千代田区九段南1-11-5
グリーンオータム2階
Tel.03(3234)7821 Fax.03(3234)7826

(2) 3館連携企画

① 3館連携企画展(3館合同巡回展 戦傷病者の労苦を伝える 大分展)

主催：しょうけい館・昭和館・平和祈念展示資料館
 会期：令和6年6月19日(水)～6月30日(日) 午前10時～午後6時(※初日は9時30分からオープニングセレモニーを開催)
 会場：大分県立美術館(OPAM) 1階展示室A (大分県大分市寿町2-1)
 後援：大分県、大分県教育委員会、大分市、大分市教育委員会、大分合同新聞社、西日本新聞社、朝日新聞大分総局、読売新聞西部本社、毎日新聞大分支局、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、大分ケーブルネットワーク株式会社、エフエム大分、J:COM大分ケーブルテレコム
 協力：社会福祉法人 太陽の家
 内容：令和6年はパリオリンピック・パラリンピック開催年でした。1964年東京パラリンピック開催を主導し、その後の日本社会におけるパラスポーツの発展に尽力した医師の中村裕博士が大分県出身であったことから、展示にあたっては、中村博士が創設した大分県大分市の社会福祉法人太陽の家の協力を仰ぎました。博士の功績を紹介しつつ、戦傷病者でありつつ同大会に選手として参加した青野繁夫さんの労苦などを紹介しました。

チラシ



戦傷病者の労苦を伝える 大分展
 車いすと義肢が
 支えた希望の二歩
 戦争で怪我や病気になる方々の労苦を
 2つの視点からお伝えします

展示1
 パラリンピックと戦傷病者
 ～中村裕と青野繁夫～

令和6年(2024) 6.19(水)・30(日)
 入場無料

時 間 ▶ 午前10時～午後6時
 会 場 ▶ 大分県立美術館(OPAM)1階展示室A
 (大分県大分市寿町2-1)

主 催 ▶ しょうけい館(戦傷病者史料館)・昭和館・平和祈念展示資料館
 協 力 ▶ 社会福祉法人太陽の家
 後 援 ▶ 大分県、大分県教育委員会、大分市、大分市教育委員会、大分合同新聞社、西日本新聞社、朝日新聞大分総局、読売新聞西部本社、毎日新聞大分支局、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、大分ケーブルネットワーク株式会社、エフエム大分、J:COM大分ケーブルテレコム

同時開催 昭和館「くらしにみる昭和の時代 大分展」/平和祈念展示資料館「平和祈念展in大分」



戦傷病者の労苦を伝える 大分展
 車いすと義肢が支えた希望の二歩
 「戦傷病者の労苦を伝える 大分展」では、2つの視点から戦傷病者の労苦を伝えることに、東京丸屋による「義肢の展示」を「義肢の展示」に併せて開催します。

1つ目の視点は、パラリンピックと戦傷病者。日本初のパラリンピックが開催された1964年東京大会では、戦傷病者選手に出場し、メダルを獲得する快挙を遂げました。パラリンピックの日本での開催を主導した大分県出身の医師中村裕博士は、その後の日本社会における障がい者の活躍の場を拓き、戦傷病者の人生を明るくしました。

2つ目の視点は、戦傷病者を支えた義肢。戦争で怪我をした戦傷病者にとって、義肢はなくてはならないものでした。生活に支えられなくなった戦傷病者一人ひとりの「パーソナルストーリー」を伝えます。

展示2
 戦傷病者を支えた義肢

展示場 大分県立美術館(OPAM) 1階展示室A
 大分県大分市寿町2-1

観覧アクセス 大分県庁内中水口(北口)から徒歩15分
 大分駅から徒歩10分

しょうけい館は、戦傷病者とその家族等が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての証言・歴史資料・書籍・情報等を収集、保存、展示し、次世代の人々にその労苦を知る機会を提供する国立の施設として、平成18年に東京丸屋に譲渡され、令和5年に移転しました。

しょうけい館
 SHOKAI-KAN
 戦傷病者史料館
 Shokai-Kan Museum for the War Wounded and the War Orphans

東京都千代田区九段北1-11-5 グリーンオーク9段 2階
 TEL:03-3234-7821 FAX:03-3234-7826
 www.shokeikan.go.jp

(2) 3館連携企画

① 3館連携企画展(3館合同巡回展 戦傷病者の労苦を伝える 大分展)



(2) 3館連携企画

② 夏休み3館めぐりスタンプラリー

- 主 催： しょうけい館・昭和館・平和祈念展示資料館
 会 期： 令和6年7月20日(土)から9月8日(日) ※3館にてスタンプ台紙を配布
 参 考： 各館オリジナルグッズ
 ・しょうけい館………オリジナルクリアポーチ
 ・昭和館………オリジナルコットントートバッグ
 ・平和祈念展示資料館……オリジナル筆箋(氷海のクロ)
 集 計： スタンプ台紙配布枚数/ 6,615枚 (前年度5,135枚)
 3館スタンプ完了オリジナルグッズ配布数:660組 (前年度510組)



オリジナルグッズセット (しょうけい館:オリジナルクリアポーチ)



チラシ・ポスター・スタンプカード(共通)

(3)こども霞が関見学デー

令和6年度は、コロナ禍以降初となる対面式のイベント開催となり、戦傷病者の労苦を知るきっかけとなるプログラムを構成し、霞が関庁舎内にブース出張しました。

期 間： 令和6年8月7日(水)～8月8日(木)

内 容： 体験して知ろう！戦争に行っけがをした人の変さ

来場者数： 127人(広報キット配布数:341セット)

●義手でキャッチ！

乃木式義手の体験用ツールで、実際に豆類を移動しました。



●ゲゲゲの鬼太郎ぬり絵

水木プロダクションより、特別に許諾いただいたキャラクターぬり絵を、普段と反対の手で塗りました。



●水木しげるが描いた戦争体験漫画を読んでみよう！

水木先生の著書を読めるようにしました。



●戦争でけがをした兵隊さんが描いた絵を見てみよう！

戦傷病者が描いた絵を紙芝居風にして上映しました。



令和6年度 こども霞が関見学デー

体験して知ろう！

戦争に行っけがをした人の変さ

プログラム

義手でキャッチ

上手にはさめたら「グッス」がもらえるよ！

すばやくはさんで！

手を使えば簡単なのに…

ゲゲゲの鬼太郎ぬり絵

いつもと反対の手で書いてみよう。

うまく塗れるかな？

水木しげるが描いた戦争体験マンガを読んでみよう！

戦争でけがをした兵隊さんが描いた絵をみてみよう！

開催日時:

8月7日(水)

8月8日(木)

(午前10時～午後4時)

ゲームに参加したら「グッス」がもらえるよ！

(※多くが放置、終了)



(4) 上映会の開催

上映会の種別	証言映像 作品名
① 企画展 連動 上映プログラム 夏の企画展「海軍 青年たちの戦争 ―5名の足跡をたどって―」に関連した戦傷病者の証言映像を上映しました。 期 間： 令和6年6月4日(火)～9月1日(日)	●片手のハンディを乗り越えて ●戦病者として生きる ●国のために生きて ～元海軍軍医中尉の記憶～ ●字を書く手を受傷して ●両眼失明が切りひらいた戦後の人生 ●海軍看護兵 若き日の記憶 ●障害を超えたおおらかさ ●ミッドウェー海戦で負傷して ●二人三脚、商売繁盛 ●支え合い ともに歩む ●生と死に向かい合った2時間 ●元海軍薬剤少尉の記憶 ●練習機「赤トンボ」の特攻隊 ●海軍少年電測兵15歳の受傷 ●蟻地獄からの脱出
② 戦傷病者の証言-1 常設展示されている資料に関連した戦傷病者の証言映像を上映しました。 期 間： 令和6年9月3日(火)～令和6年12月1日(日)	●二人で一人、傷痍軍人の妻として ●受傷が変えた人生～苦悩、そして挑戦～ ●療養所は大きな家族～支えあい、助けあい～ ●軍隊経験 その光と影
③ 戦傷病者の証言-2 常設展示されている資料に関連した戦傷病者の証言映像を上映しました。 期 間： 令和6年12月3日(金)～令和7年2月4日(火) 令和7年2月12日(水)～令和7年3月2日(日)	●家族の絆で支え合う ●ない傷に耐えて ●兄嫁と結婚してつかんだ幸せ
④ 帰還者たちの記憶ミュージアム 九段ギャラリー特別展 連携プログラム 平和祈念展示資料館の九段ギャラリー特別展に連携した証言映像を上映しました。 期 間： 令和7年2月5日(水)～令和7年2月11日(火)	●何としても生きて帰る ～極寒と酷暑の地で～ ●人生を切り開いた知恵 ～シベリアで片腕を失う～ ●全てはシベリアから始まった

(4) 貸出キット

常設展示の内容を貸し出しパネル仕様にした貸出キットです。戦傷病者の労苦を、解説文、資料画像で伝えられるように構成しました。令和6年度は、自治体や関係団体など3件に貸し出しました。

貸出しパネル 30枚セット（網掛けのパネルは15枚ダイジェスト仕様）

「戦地へ向けて」	徴兵-1	「戦場での受難、治療」	受傷-1	「搬送、戦時下の療養生活」	搬送	「家族とともに」	生活の困窮-1
	徴兵-2		受傷-2		病院船		生活の困窮-2
	入営-1		受傷-3		戦時下の療養生活-1		傷病とともに生きる-1
	入営-2		受傷-4		戦時下の療養生活-2		傷病とともに生きる-2
	出征-1		救護・収容-1		退院後の社会復帰-1		傷病とともに生きる-3
	出征-2		救護・収容-2		退院後の社会復帰-2		ともにのりこえて-1
	戦地での生活-1		野戦病院-1				ともにのりこえて-2
	戦地での生活-2		野戦病院-2				ともにのりこえて-3

貸出し用 実物

義手・接端部



貸出しパネル(抜粋)



義手



(1) 実物資料の収集

寄贈では、戦傷病者に関する資料(戦傷奉公杖、事実証明書)、関連資料(衛生兵の日記帳、衛生学関係資料)などを受け入れました。
 購入では、入院傷兵に宛てた慰問葉書や赤十字病院関係者の写真帳などを入手しました。

令和5年度末までの登録数(内、平成24年度まで 10,853点)	32,242点
令和6年度の資料寄贈(令和7年1月末現在)	531点
令和6年度の資料購入(令和7年1月末現在)	40点
館所蔵資料総合計(令和7年1月末現在)	32,813点

※令和7年1月14日より1月20日まで燻蒸を実施しました。

(2) 図書資料の収集

寄贈では、箱根療養所で発行されていた文芸誌「函嶺」、国府台陸軍病院病床日誌の書き起こし資料などを受け入れました。
 購入では、「心の傷」関係図書、軍医の体験記、徴兵などに関する文献などを入手しました。

令和5年度末までの登録数(内、平成24年度まで 7,892点)	10,520点
令和6年度の図書寄贈(令和7年1月末現在)	69点
令和6年度の図書購入(令和7年1月末現在)	47点
館所蔵資料総合計(令和7年1月末現在)	10,636点

(3)この他実施した資料調査

「心の傷」を負った戦傷病者とその家族に関する資料や専門家の研究の調査

令和6年4月1日より、「心の傷」を負った戦傷病者とその家族の労苦を伝えるための資料、専門家による研究成果などの調査を、東京大学大学院鈴木淳教授及び上智大学中村江里准教授の御協力・御助言の下おこなった。

※調査にあたり個別の具体事例を示す場合は、主に精神疾患と認定された戦傷病者を対象とした(頭部戦傷やマラリア等の病気による精神疾患を除く)。

展示のため資料(候補)は以下のとおり。(本報告は、令和7年2月15日時点のものであり、引き続き資料調査を進めている。)

1. しょうけい館の所蔵資料

1-1. 家族の体験記

平成11年に日本傷痍軍人会の収集した労苦体験記

「精神分裂症」と診断された戦傷病者の家族が、戦後の暮らしの様子や家族の想いを綴った体験記

1-2. 傷痍軍人会の「再審査請求書」等

都道府県傷痍軍人会から寄贈された団体資料のうち、「再審査請求書」から見る労苦事例 ※継続調査中

「精神分裂病(症)」と診断された戦傷病者の再審査請求書(有期裁定の再(延長)申請書類)から、症状の経過(頭痛、気分の浮き沈み、発作等)、就業状況(働くことができる・できない)、日常生活(療養の状況、家族の負担、自己で可能なことの有無)など

1-3. 図書資料

国府台陸軍病院の病床日誌(カルテ)の資料集や専門家の研究など

2. 旧陸・海軍病院、傷痍軍人療養所の資料

2-1. 旧傷痍軍人武蔵療養所／国立武蔵療養所(現国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター)

傷痍軍人武蔵療養所時代～国立武蔵療養所時代、現代にかけての入所者の図書・雑誌資料、写真、モノ資料、研究者の資料など

2-2. 公文書館等

国立公文書館や都道府県の文書館、援護担当部署には戦傷病者(傷痍軍人)の「病床日誌」や関連文書の所蔵がある

2-3. 個人蔵 元国府台病院勤務の医師の資料

国立国府台病院の元入院患者の予後調査に関する資料や論文原稿(中村江里氏の所蔵)

2-4. 個人蔵 元下総療養所の入所者の作品

傷痍軍人下総療養所・国立下総療養所に入所していた方が療養所作業の際に制作した作品

2-5. 映像資料保有者等

報道機関によって制作された映像番組の中には、当時(戦中、戦後)の映像が含まれており、「心の傷」を負った戦傷病者を写した貴重な映像があることが確認されている。

(1) ホームページ・情報媒体利用

① ホームページ・SNS(Facebook/X)の活用

ホームページ・をFacebook・Xを活用し、情報発信に努めました。特にSNS(Facebook・X)では、企画展や語り部定期講話会などの情報がリンクされることにより、来館動機となっています。

なお、しょうけい館ホームページは、基本的にこれまで掲載した情報を引き継いでおり、「館だより」を11回、企画展等その他のページ情報を10回更新したほか、企画展やこども霞が関見学デーなどで特設ページを開設し、情報発信に努めました。

ホームページ



Facebook



X



② 情報媒体での発信

令和6年度は、「広報千代田」等の広報物、東京都博物館協議会等の刊行物、「千代田区観光協会」HP、「インターネットミュージアム」、「イベントバンク」等の情報サイトを活用し、企画展や定期上映会、地方展等について、それぞれの媒体に対して19回掲載し、リアルタイムでの情報提供に努めました。

(2)メディア・掲載記事

○ 3館連携企画展(3館合同巡回展 戦傷病者の労苦を伝える 大分展)

- ・1964年東京パラリンピック開催を主導し、その後の日本社会におけるパラスポーツの発展に尽力した医師の中村裕博士が大分県出身であったことから、関心が高く、様々なメディアで紹介されました。

2024.06.21 NHK
「戦傷病者」の苦労を伝える展示会 大分市

2024.06.21 大分合同新聞社
「戦争のつらさ後世に」

2024.06.23 読売新聞
「戦争物語る資料一堂に」

大分 NEWS WEB

「戦傷病者」の苦労を伝える展示会 大分市

06月21日 12時27分



第2次世界大戦に従軍し、けがをしたり病気がかかったりした「戦傷病者」の実情を紹介する展示会が、大分市で開かれています。

この展示会は、戦傷病者の情報や資料を紹介している東京の「しょうけい館」などが全国各地で開いているもので、会場の大分県立美術館には、パネルなどおよそ120点の資料が展示されています。

このうち、1964年に開催されたパラリンピックの前身にあたる大会でフェンシングと水泳に出場した青野繁夫さんは、戦争で腰を負傷し両足に障害が残りました。

青野さんは練習期間わずか8か月でフェンシングで銀メダルを獲得しており、「とにかくやり抜き、銀メダルを獲得できたことは、やればできるという自信を強く味わえた」など競技終了後に話していたことが、メダルの複製品とともに紹介されています。

また、洋裁の仕立師的林若助さんを紹介するコーナーでは、戦争でのけががもとで切断した右腕の義手が展示されています。

林さんは服を仕立てる際、先端についた金属部分で布を押さえ、左手で手縫いするなど工夫をしながら仕事にあたっていたことが紹介されています。

「しょうけい館」の永島武晴学芸員は「展示資料を見ることで、何か気づきにつながれば非常にうれしい」と話していました。

2024年(令和6年)6月21日 金曜日

【大分】戦中、戦後に日本人が経験した苦難を伝える三つの企画展が大分市寿町の県立美術館で開かれている。東京都にある国立博物館「昭和館」、しょうけい館(戦傷病者史料館)、平和祈念展示資料館の合同巡回展で、県内関連の資料や写真も交え、戦争のつらさ、当時の人々の暮らしを伝えている。

県立美術館で企画展 戦争のつらさ後世に

戦争体験者の高齢化が進む中、記憶を後世につづけるため、戦後79年を記念して、戦争のつらさを伝える展示会が開かれています。

県内関連資料交え紹介

しょうけい館は戦傷病者の苦難を伝える一環として、戦後79年を記念して、戦争のつらさを伝える展示会を開かれています。

展示会では、戦中、戦後に日本人が経験した苦難を伝える三つの企画展が、大分市寿町の県立美術館で開かれています。

展示会では、戦中、戦後に日本人が経験した苦難を伝える三つの企画展が、大分市寿町の県立美術館で開かれています。

2024年(令和6年)6月23日(日曜日) 記事 大分県 大分市

戦争物語る資料 一堂に

「昭和館」など3館巡回展

県立美術館に大分ゆかりの品

本県戦争に関わる資料を収蔵・展示している昭和館、しょうけい館、平和祈念展示資料館の3館合同巡回展が、大分市寿町の県立美術館で開かれています。今年で戦後79年、戦争体験者の高齢化が進む中、当時の暮らしや戦争のつらさを伝える展示会が開かれています。

展示会では、戦中、戦後に日本人が経験した苦難を伝える三つの企画展が、大分市寿町の県立美術館で開かれています。

展示会では、戦中、戦後に日本人が経験した苦難を伝える三つの企画展が、大分市寿町の県立美術館で開かれています。

展示会では、戦中、戦後に日本人が経験した苦難を伝える三つの企画展が、大分市寿町の県立美術館で開かれています。

(2)メディア・掲載記事

○ 語り部特別講話会

・終戦記念日に合わせて終戦記念語り部特別講話会を実施し、語り部事業に注目いただきました。

2024.08.14 読売新聞「語り部次世代が継ぐ」

2024.08.15 毎日新聞「知らぬ世代も自分事に」



語り部次世代が継ぐ

戦後79年

天気予報や郵便視点様々

語り部の役割は、戦争の歴史を伝えること。語り部は、戦争の歴史を伝えるために、戦争の現場に立っていた人々の話を聞き取り、それを後世に伝える役割を担っている。語り部は、戦争の歴史を伝えるために、戦争の現場に立っていた人々の話を聞き取り、それを後世に伝える役割を担っている。

語り部の役割は、戦争の歴史を伝えること。語り部は、戦争の歴史を伝えるために、戦争の現場に立っていた人々の話を聞き取り、それを後世に伝える役割を担っている。語り部は、戦争の歴史を伝えるために、戦争の現場に立っていた人々の話を聞き取り、それを後世に伝える役割を担っている。



知らぬ世代も自分事に

東京・しょうけい館

記憶継承へ「実感」する展示

戦争を考える

語り部の役割は、戦争の歴史を伝えること。語り部は、戦争の歴史を伝えるために、戦争の現場に立っていた人々の話を聞き取り、それを後世に伝える役割を担っている。語り部は、戦争の歴史を伝えるために、戦争の現場に立っていた人々の話を聞き取り、それを後世に伝える役割を担っている。

語り部の役割は、戦争の歴史を伝えること。語り部は、戦争の歴史を伝えるために、戦争の現場に立っていた人々の話を聞き取り、それを後世に伝える役割を担っている。語り部は、戦争の歴史を伝えるために、戦争の現場に立っていた人々の話を聞き取り、それを後世に伝える役割を担っている。

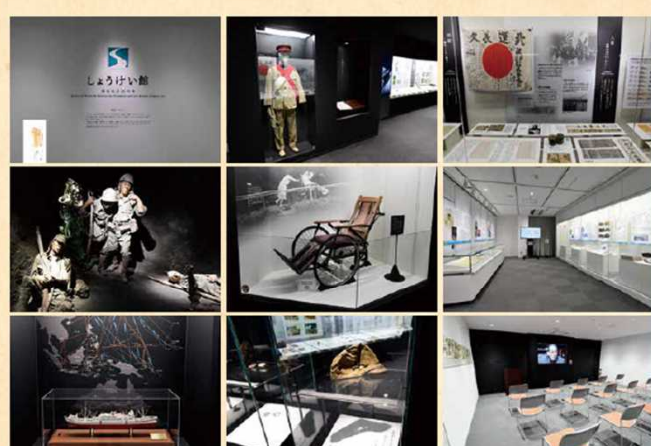
(2)メディア・掲載記事

○ 施設紹介

・厚生労働省様の広報誌で紹介されました。

2024.07 月刊厚生労働8月号

特集 史料や記録がつなぐ運轉行政の歴史
戦争を忘れない



無事生還を願った千人針、飯盒（はんごう）は、戦時中、戦場で左眼を負傷したときに掛けていた眼鏡。負傷した時に自分で手当てができるように携帯していた三角巾（さんかくしん）（包帯）などを展示。野戦病院のシオラマでは、戦傷病者の受療病と戦地での救護活動の様子が生々しく伝わってきます。

さらに、ソウを使って重傷者を搬送しているときの様子を写した戦場スケッチ画、病院船の模型と当時の映像、義足、義眼、義指、軍人傷病記章、後遺症として激しいてんかんの発作に悩まされるようになった戦傷病者が書き留めた記録簿、左足だけで歩くことができたように工夫した片足踏みベダル自転車、日本傷病軍人会館傷病者慰問隊などの展示も。

触れて知る展示では、戦傷病者が使用していた義肢を再現したレプリカに触って構造を調べたり、付けたときの見た目を想像したり、重さを感じることが出来ます。

「たくさんある資料の中から、常設展示の資料を選定する時に重視したのは、『それが何を物語っているのかははっきりと伝わるもの』であるということです。戦争は過去

の出来事ではあるけれども、展示を通してそれを追体験し、自分事として捉えてもらえるように意識しています」と、学芸員の半戸文さん（はんどふみ）は話します。

**若い世代でも理解できるように
戦場のアニメーションを設置**

同館は昨年の移転に伴い、常設展示室の各コーナーの横では常に影絵のアニメーションが流れているように工夫。戦争についてまだ学習していない若い世代にも、アニメーションを見れば、展示しているものの意味が理解できるように工夫しました。

「戦傷病者やそのご家族の方が言っていたのは、『こういう体験は自分たちで最後にしてほしい』ということ。戦争と平和について考えを深めてほしいと思います。移転で少し面積が狭くなりましたが、展示物やタッチモニターを加えるなど工夫をして、これまで以上にさまざまな世代の方々足を運んでもらい、生の資料を見ていただく機会を提供していきたいです」と、半戸さんは力を込めて言います。

資料館・博物館に行ってみよう

戦争の体験・記録・記憶や戦後の労苦を若年世代や次世代に継承するために、さまざまな資料・情報を収集・展示している「しょうけい館」と「昭和館」。両館の展示内容や特徴、展示に込められたメッセージにフィーチャーします。



学芸員
半戸 文さん

証言や資料を通して戦争を受け継ぎ語り継ぐ

しょうけい館 戦傷病者史料館

は、戦傷病者とその家族などが体験した戦中・戦後の労苦に関する証言や歴史的な資料・書籍・情報を収集し保存・展示している国立の施設で、2006年3月に開設しました。

戦傷病者とその家族の労苦を知り、後代に受け継ぎ語り継ぐという意味を込めて「承継（しょうけい）」を館名にしています。

10月に、東京都千代田区九

令和6年度 夏の企画展
海軍 青年たちの戦争
—5名の足跡をたどって—



令和6年6月4日（祝）～9月1日（日）

しょうけい館 2階 企画展示室
10:00～17:00（入館は16:30まで）
休館日 毎月第1日曜日（7月15日）
※7月15日は7月16日に移動します

段下のグリーンオーク九段の2・3階に移転しました。

2階には企画展示室やシアター、図書室などがあります。企画展示室では、年4回の展示替えを行いながら、戦傷病者やその家族の労苦を紹介しており、現在は夏の企画展「海軍 青年たちの戦争 5名の足跡をたどって」を開催中です。海軍に志

しょうけい館

（戦傷病者史料館）

戦傷病者とその家族の労苦を自分事として捉えられるように



DATA ●〒102-0073 東京都千代田区九段北1-11-5 グリーンオーク九段2階
TEL: 03-3234-7821
FAX: 03-3234-7826
URL: www.shokeikan.go.jp/
観覧時間: 午前 10:00～午後 5:30
（入館は午後5時まで）
休館日: 月曜日（祝日または振替休日の場合はその翌日） 年末年始（12月28日～1月4日）
入館料: 無料

第1期生～3期生の語り部による講話活動に、様々な活動支援や実施管理をしています。

館内の活動は、「団体見学者向け講話」と「定期講話会」を実施しました。「団体見学者向け講話」では、聴講者の希望も考慮しつつ語り部の講話内容を調整しています。また、館外活動では、語り部講話を希望する団体の場所に出向く「派遣講話」を精力的に実施しました。

① 館内活動(団体見学者向け講話)

No.	日付	団体名	人数	備考
1	5月2日	アオバジャパンインターナショナルスクール	5人	
2	6月1日	東京大学	21人	
3	7月25日	大妻女子大学	5人	
4	7月27日	野中の会	6人	
5	8月6日	聖心女子大学	6人	
6	8月7日	千葉明德短期大学	12人	
7	8月21日	東京都立飛鳥高等学校	9人	
8	10月10日	武蔵野市非核宣言平和事業実行委員会	10人	
9	10月22日	東京都民医連検査部会	10人	
10	11月1日	防衛大学	33人	

① 館内活動(団体見学者向け講話)

No.	日付	団体名	人数	備考
11	11月23日	ピースメッセンジャージュニア2024 (調布市役所)	9人	
12	11月23日	福岡県民医連労働組合連合会	21人	
13	11月24日	ピースメッセンジャージュニア2024 (調布市役所)	10人	
14	12月12日	三菱人権啓発連絡会A分科会	10人	
15	1月10日	社会医療法人社団 健生会 立川相互病院	14人	
16	1月23日	東村山第三中学校	22人	
17	1月31日	北区立赤羽岩淵中学校特別支援学級	11人	

団体見学 講話の様子



千葉淑徳大学



ピースジュニア2024(調布市役所)



防衛大学

② 館内活動(定期講話会/特別講話会)

No.	日付	団体名	人数	備考
1	4月14日	定期講話会	18人	
2	5月12日	定期講話会	25人	
3	6月9日	定期講話会	13人	
4	7月14日	定期講話会	50人	
5	8月11日	定期講話会	20人	
6	8月12日	終戦記念 特別講話会1	20人	
7	8月14日	終戦記念 特別講話会2	41人	
8	8月15日	終戦記念 特別講話会3	43人	
9	9月8日	定期講話会	13人	
10	10月13日	定期講話会	18人	
11	11月10日	定期講話会	17人	
12	12月8日	定期講話会	17人	
13	1月12日	定期講話会	18人	

② 館内活動(定期講話会/特別講話会)

定期講話/特別講話の様子



定期講話会



定期講話会(戦盲歌 特別講話)



定期講話会(戦盲歌 特別講話)



終戦記念 特別講話会1



終戦記念 特別講話会2



終戦記念 特別講話会3

③ 館外活動(派遣講話)

No.	日付	団体名	人数	所在
1	5月29日	二松学舎大学	32人	千代田区
2	6月3日	二松学舎大学	33人	千代田区
3	8月9日	南足柄市福祉課	62人	南足柄市
4	8月12日	東部連合長老会	13人	中央区
5	9月4日	東京都立国際高等学校	28人	目黒区
6	11月13日	都立竹台高等学校	267人	荒川区
7	1月22日	和洋九段女子高等学校	90人	千代田区

派遣講話の様子



二松学舎大学



南足柄市福祉課



都立竹台高等学校

一般広報誌として館の情報を充実化しさせて、令和6年11月にvol.02を発行いたしました。
(現在、vol.03の発行準備中)

近年、友の会会員数が減少していることもあり、「しょうけい館通信」と誌名を改め、各自治体や学校、図書館など公共機関をはじめ、博物館などの関係機関などへも配信いたしました。

施設の情報や、各種企画展、また語り部活動なども紹介することで、当館と戦傷病者の労苦について知っていただく機会にしています。

友の会会員数（令和7年1月現在）
381名

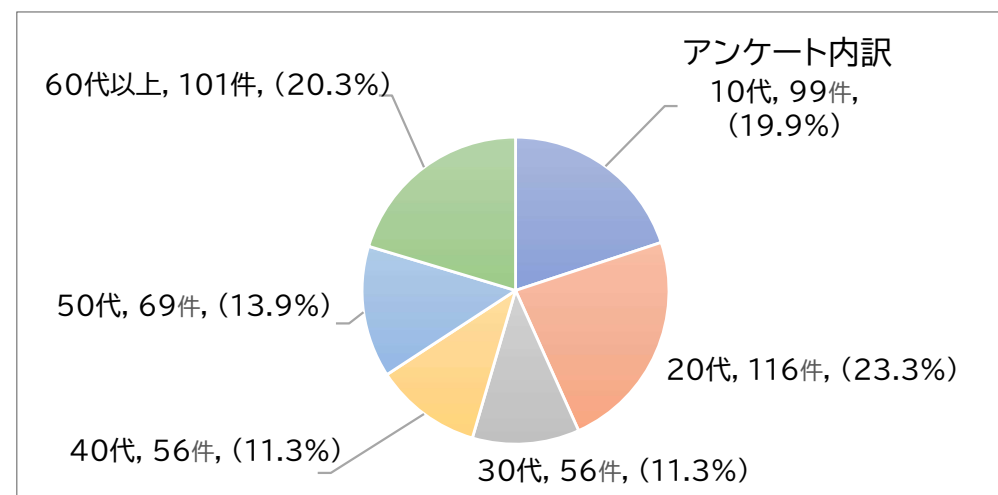
※友の会会員は、元日本傷痍軍人会会員と、
同妻の会会員とそのご家族



令和6年度は、497件の回答が寄せられました。

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
比率	19.9%	23.3%	11.3%	11.3%	13.9%	20.3%
件数	99	116	56	56	69	101

・ 令和7年1月末までの集計



感想・意見(集計記録より抜粋)

【10代】

- 戦争はあってはならないもの、そして、未来の平和のために、過去の戦争を後世に伝えていくことの重要性を改めて感じることができました。
- 戦争の映画を最近見たばかりだったので、戦争の話に興味があり、その上で実際使われていた物などお話を聞かせていただき、すごく勉強になりました。今の時代、戦争がなく、子ども達はもちろん知らない事だらけだと思うから、保育者を目指しているからこそ、「昔こんな事があって、今こうして過ごしているのはあたり前じゃない」というのと「今こうしていられる事はありがたいこと」ということを伝え、戦争が今後もないようにと、伝えていけるようにしたいなと思います。
- 改めて、今回の展示を見て戦争の恐さ、得るものが何も無いということを知る事が出来ました。また、実際に戦争の被害に遭われた方の体験談を聞くことで、よりリアルにその時の情景が思い浮かべられ、思わず恐怖で身震いしてしまう程の物でした。ただ恐怖だけでなく、それを聞いた上で、今現在の世界のどこかで起きている戦争にも、このような体験をしている方がいるのだと思うと、他人事ではないと感じられました。
- 私の祖母は戦争を体験していて、実際に話を聞くということは、思い出したくないであろうと思って、聞くことがありません。なので、実際にものを見る事が出来たり、戦争や戦傷病者についての話を聞くことができて、とても貴重な経験になりました。

【10代】

- 戦争を体験している方が少なくなっているからこそ、当時を感じさせる物は非常に大切だと思いました。貴重な資料をありがとうございました。同い年なのに今の自分たちよりしっかりしていて尊敬します。
- 3階の野戦病院のジオラマが本当に印象に残っています。展示を見ながら経路に沿って進んでいたら目に入ってきたのでびっくりしました。人形のリアルさも相まって野戦病院の悲惨さがよく分かりました。手を伸ばしている人や床で座り込んでいる人、真ん中で手術を受けている人の苦しみようが伝わってきました。また、場所によって軍人さんたちの置かれている状況に違いがあることも知らなかったのが驚きました。戦傷者に照点を当てた展示をあまり見た事がなかったので興味深かったです。
- また大人になったら来たいなと思える展示でした。戦争の恐ろしさ残酷なことなどを知れてすごく良かった。

【20代】

- ダークツーリズムの一環として、今回しょうけい館を訪れました。今日の午前中は新宿の平和祈念展示資料館に行ってきて、そことも共通するのですが、「戦争」という全体ではなく、その中でも戦傷病者にフォーカスを当て、その者の人生を追っているが、非常に分かりやすかったです。他の資料館だと「中には被弾し、命を落とす者もいた」や「右手を失った者も少なくなかった」などと、一言二言ですまされる部分でも正直あると思うので、ここまでがっつり詳しく展示されているのは本当に貴重と言うか、意義があるなと感じました。収容品の数も多い上、1つ1つに説明が付けられており、また、ジオラマや映像も豊富でじっくり理解しながら回れてすごく満足しています。帰ってからは、パンフレットを見返して、体験記の冊子も読もうと思います。企画展が変わったらまた来ます。
- 戦争のこととなると、戦中や戦争末期の事と思い浮かべていましたが、今回の展示を見て、戦争を生き残っても戦地で負った傷や障害で苦しむ人々がたくさんいたことを学ぶことができました。
- 戦争を体験していない私たちの世代にとって、その時の状況を知れる貴重な場所だと思いました。展示品を見て、どれだけ戦争とは怖いものなのかが分かったし、これから戦争が2度と起きてほしくないと思います。
- 戦傷者に視点を当てて戦争を学んだことがなかったため、初めて知る事が多く大変勉強になりました。
- 戦争・傷病者について考えるととても貴重な機会となりました。語り部講話では当時の沖縄の情景がまざまざと浮かんできました。語り部含め手足を失った人、目を失った人の話や写真、文章を見て、とても辛い気持ちになりました。日本で暮らしていると平和の良さを自覚することが少ないですが、当時の様子を見て学ぶことで、いかに平和が重要で大切なことが再確認することができました。またの機会に見学したいと思いました。

【30代】

- 戦争、戦傷病の経験を証言映像を通して、知る事ができ大変勉強になった。今後もぜひ様々な形で戦争の歴史を残していただきたいと思います。
- 語り部さんの話や実際の展示物や解説をみて、館内を見て回り、戦争が体だけでなく心にも大きな傷を残し、今後の人生にも大きな影響を与え、本人や周りのご家族の方も苦しまれてきたということが、理解できました。平和のありがたみや思いやりのある関わりを大切にしたいと感じました。
- 病院替わりとしてつくられた防空壕で、奥に進むほど酸素が薄くなっていった、といった話や、汚物などでどんどん不衛生な環境になっていった話など、今回聞くまで想像できなかったことでした。ドラマや映画などでは伝わってこないリアルな話を聞くと改めて戦争の過酷さを実感しました。ウクライナやパレスチナの惨状も様々なメディアを通して伝わってはきますが、実際はもっと悲惨な状況なのだろうと感じました。今では直接お話を聞くことは難しいでしょうが、高齢者の方の中には戦争の記憶を抱えておられる方もまだいらっしゃると思うので医療現場にいるものとして戦争のことは引き続き学んでいく必要があると感じました。

【40代】

- 移転に伴い、常設展の内容も一新したようで、テーマ別にコンパクトにわかりやすく解説がされていて良かったと思います。企画展の義手も、様々な義手があって用途によって使い分けられていることや、自らの意志でそれを使わなかった人がいた事、さらにそれを使うことによって、差別を受けるような事があったことなど、義手一つをとっても知らなかった事がたくさんあり、大変勉強になりました。
- 戦争を経験された方が高齢になったり、直接お話されていくことが難しくなってきた中で、語り部の方々がその思いや体験を語り継いでいくことは、非常に重要な役割だと感じました。戦争を知らない私たちの世代が、経験を語り継いでいくことは使命のようにも思います。
- 展示物も見やすく、とても良い展示でした。

【50代】

- 初めて来ました。私が子供のころ戦争体験を語る方はいなくて不思議でしたが、今はとてもつらかったから語れなかったんだなと思います。語り部講話が聞けて本当に良かったです。
- 前より展示品が増えて充分戦中のことがより深く伝わった。胸が一杯になった。
- 義手など手に取ってさわれる展示は、身近に感じるためとてもよいと思います。

【60代以上】

- 新しい展示場所になって見やすくなった。
- 近年ますます戦争は身近なものとなりながらも、若い人たちには、自分達と先の戦争が関わっている意識が低下しているのが残念です。時折、あまりにも日常に忙殺され、何のために今の仕事(教師)をしているのか忘れてしまいますが、今日改めて、小さな使命を思いました。小さな力ですが、若い方に少しでも過去をつなぎ未来の戦争が起らぬよう仕事をしたいです。
- 教員として学生を引率して来館するのですが、今時の若者と呼ばれる世代(全てではありませんが)に戦争の恐怖、悲惨さを伝えるためには非常に苦労するところがあります。その点、ジオラマ、画像、またそれぞれの展示の説明が簡潔なところ(漢字力もスマホの影響で弱くなっている、ふりがなも振ってあり)に注視する姿を見ます。より具体的に簡潔に説明するようにすれば、もっと関心(2ページの戦傷病者の家族の証言は、現実感があり、また量からもすぐに読めるもので、学生も読んでいた)を抱くと思います。
- 皆様が経験されたご苦労が良くわかりましたし、深く胸につきささってきました。今便利で平和な生活を送っている私たちにとっては、知らないことばかりですし、戦争の恐さを改めて思い知りました。
- 子供の頃はまだ手足を失った戦傷者が路上でお金をもらっている姿をよく見かけました。父の兄はビルマで戦病死したそうです。